

1. 地元住民（中生保内）から、(株) 司食品工業東北工場への視察を、是非とも、行わせて欲しいとの要望。司食品工業の誘致については、非常に心配である。詰めをしっかりと欲しい。

平成 25 年 8 月の住民説明会で、そのような意見が出されており、その際の回答としては、大人数では無理であることから、地域の代表者並びに近隣の代表者として対応するという説明をさせていただいている。社長からは、前の段階では、市民の方々の視察について受け入れるとのお話をさせていただいている。その点をあらためて実施の方向に向けて調整したい。人数の制限があり、5 人か 6 人ぐらいに絞っていただき、地区の中で選任していただくことを想定している。

造成工事完成後に、社長と打合せをすることとなっているが、その前に県・銀行・市で事前打合せをするための日程調整中である。

2. カラ吹き源泉事故は、非常に残念。危機管理は、事故が起きないように、役目を果たすべき。起きた後の危機管理では無意味。

実際に起きてしまった事実がある。事故調査委員会を設置していただき、硫化水素濃度を測ったり、施設についても事故調査委員会から指摘されている点がある。指摘されている点の改修に向けて取り組み、今後、事故が絶対に起きないように対策を実施していきたい。

3. 神代中央線は、4～5 年前「4～5 年後に開通する」と市から言われたが、未開通区間が多く、いつ開通するか分からない。開通が遅れているのは何故か。また、完成しているにもかかわらず、通行できない区間もある。さらに、中央線が高いため、既存の道路からの接続部分も急激に高くなっている。これを是正すべきでないか。

神代中央線について、平成 26 年度で延長ベースで 70%ほどの進捗で、国庫補助事業で事業を実施しているため、補助金の配分額、黒倉の土地改良区の換地等の関係もあり、このような進捗となっている。完成している部分で通行できないとする点については、内陸線の前郷踏切から国道 105 号までの区間については、平成 26 年度事業において車道部分が完了している。平成 27 年度の事業で歩道部分の舗装、区画線等の実施を見込ん

でいる。この工事が完成するとその部分を開通したいと考えている。もう1箇所、梨田橋の左岸側で管の工事があり、この工事を平成27年度で予定しており、この工事が完了すると開通したいと考えている。一部中央線と既存市道部分が高く勾配がきついとすする点については、仙北警察署と交差点について協議しており、基準等はクリアしているが、現地を再度確認しながら検討したい。状況については、地域の方々へチラシ等でお知らせしする。

4. ツギハギが重なり合っている市道が多く、未舗装の道路を走っている感覚になる。ツギハギの多いところは、全面改良すべきでないか。

舗装工事については、舗装の打ち替え、切削のオーバーレイ等で計画的に進めているが、老朽部分全てとはいかない状況であり、欠損等の維持補修を行っているところである。幹線道路については、補助事業等の計画により道路補修を進める計画で検討している。

5. 木質バイオマス事業について、火災により、施設を廃止することは「議会だより」や「市広報」で知っているが、今までの収支について、議会が市に求めるべきでないか。市の木質バイオマス事業は、廃止されたが、北秋ではペレットなどを活用している。今後、公共施設などに、ペレットストーブなどを導入してはどうか。石油と比較しコストはかかるが、普及できるなら力を入れて欲しい。

平成21年に建設、平成22年から平成26年まで、平成26年は3ヶ月稼働したが、全体的な収支からすると約1億1,300万円ほどの赤字という状況である。しかしながら、支出の面においては、雇用関係で賃金が3,400万円ほど、そのほか間伐利用したチップの購入料約4,700万円ほど支出しており、木材関係の趣旨からすると、効果が上がっているものと考えたい。施設本体の解体については、6月12日付けで契約を済ませており、金額が約1,836万円、工期が6月12日から9月30日までを予定している。バイオエネルギーセンター本体の解体、チップボイラーの解体撤去、奥の建物一部を解体して残す予定で、手前側の本体部分は撤去後、舗装までの復旧という形での発注としている。売却可能なものは、本体部分で設計額からすると約312万円ほど、チップボイラーの部分は38万7千円、これに入札比率がかかるので、両方あわせると約346万円ほどが売却可能なものとなっている。鉄くずというような取り扱

いになり、機械については受注生産であり、ほかの施設へ流用できるようなことがなく、アルミやステンレスなどの材料としての仕分けになる。

ペレットについては、今のところ考えていない。市内の製材業者が、バイオマス発電のためのチップの供給態勢を作りつつある。供給先としては、秋田市の向浜に持って行く計画を立てているようである。そちらの対応を協議をしているが、ペレットまで手が回る状況にはないようである。方向性は間違っていないと思うことから、これからも検討してまいりたい。また、木材関係者の方々へも、ペレットについての話をさせていただきたいと考えている。

6. 年配者が働ける企業誘致をして欲しい。誘致企業は必要で、この地域では、他に働きに出かけなければならない。こういう地域が生きる術を考えなければならない。不便なところに住まなければ良いという意見もあるが、全然違うと思う。この地に、家もあるし、先祖もいる。どうか、この地域に企業を誘致することに取り組んで欲しい。誘致企業や産業を興して欲しい。

西木工業団地、田沢湖工業団地があるが、商工課で管理している。新しい企業の進出となると、どうしても敷地をセットしておく必要があると考えている。西木工業団地については、ストロベリーファームが平成28年度までの試験栽培としており、その後の経過をみて、2次拡張というような計画もある。その状況を見ていく必要がある。田沢湖工業団地については、整備をすればいつでも使える状況であるとする思いがあるが、やはり、産業を興していくとなると市内の企業の産業育成にも力を入れないといけない。また、新規の県外からの誘致企業となると、それなりの敷地の整備も伴うことから、平成28年度ごろから敷地の、工業団地の調査として予算を計上していきたいと考えている。

市内の企業については、中小企業活性化支援事業という平成27年度からの新規事業があり、新規の事業に対する補助事業がある。新しい産業とする大きな枠組みとなると、今すぐということは話すことはできないが、話を進めている案件がある。日本機械工業という消防自動車の製造会社である。日本機械工業の業務を仙北市内の業者と提携できないかとする思いの中で話を進めさせていただいている。まだ、表だった形ではない。地元の企業の代表をされている方とその会社の社長とお会いして進めたいと考えている。そうした場合には、工業団地でなくても工場的な施設といったものも考えられるのではないかと、現在は考えている。

7. 赤川都市下水道での話である。そこへ集中してしまい、処理できずに溢れてしまったことについて、意見を言っているが、なかなか難しいと言われている。どうなっているのか。新たに、第2赤川堰を作るとなると、12億円かかると言われたが、進んでいるのか。抜本的な改良が出来ていないのではないか。現状、今後の対策について伺いたい。

赤川都市下水路の下水道化については、事業費の関係からかなり難しいと考えている。角館総合病院前の赤川下水路に岩瀬地区の融雪ポンプがあったものを移設している。また、角館駅の北、駅北線のJRの横断部で暗渠に集水する下水をできるだけ流水するように、できるだけ集中化しないよう、外ノ山線の側溝改良等を継続して行っている。また、菅沢地区の流雪溝の排水先にも、この横断部分に集まってくるような形にもなっていることから、4箇所に分水溝で仕切り板により封鎖して、一極に集中しないような形で、分散させるような取り組みをして取り組んでいるところである。